

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

一般社団法人 日本保育者未来通信

②施設・事業所情報

名称：ブライツ保育園 横浜松見町	種別：認可保育所
代表者氏名：芳野哲男	定員（利用人数）： 60（62）名
所在地：〒221-0005 横浜市神奈川区松見町3丁目2-4	
TEL：045-432-0190	ホームページ： https://www.saiseikai.net/brightmatsumi/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2018年4月	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 済聖会	
職員数	常勤職員： 13名 非常勤職員： 7名
専門職員	園長： 1名 調理員： 2名
	保育士： 10名 保育補助： 5名
	栄養士： 1名 事務員： 1名
施設・設備 の概要	保育室：5室 事務室：1室
	相談室：1室 トイレ：3個（誰でもトイレあり）

③理念・基本方針

<p>【保育理念】</p> <p>子どもたちの「生きる力」(独り立ちし社会の中で生きていく力)の基盤づくりを「アタマ・ココロ・カラダの三位一体“興育”を通じて支援する</p> <p>【保育方針】</p> <p>アタマ・ココロ・カラダの三位一体“興育” —興味・体験・感動・気づき—</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもたちの興味を引き出すより多くの機会を提供する 2. 子どもの思いを受け止める 3. 子どもが自分で経験することを大切にする 4. 子どもが自分で考え工夫することを大切にする
--

④施設・事業所の特徴的な取組

<p>【職員が勤務、保育をする上で必要な情報を周知し、働きやすい職場づくりに努めています】</p> <p>法人の理念や方針、保育モットーなどが記載されているチームメンバーハンドブックには、基本的な姿勢や行動、身だしなみ基準、育児休業など各種法令に基づく制度、人権・男女共同参画に配慮した保育、ことばの注意、来客対応、雇用・人事に関する内容など、職員が勤務、保育をする上で必要な情報がイラストも使用しながら、分かりやすくコンパクトにまとめられ周知されています。</p> <p>また、園のしおりや全体的な計画園外活動や事故防止などの各種マニュアルを綴じた、松見町保育の手引きは、入職内定者に事前に送り、入職後に園長と一つ一つ確認することにより理解を深めています。</p>

日ごろの保育では、各職員が事務作業をする時間を確保できるようにシフトを組んでいます。各職員の事務作業時間は、毎日ホワイトボードに掲示することで、全職員で共有し取り組む体制が整えられています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年6月22日（契約日）～ 2021年2月24日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

【園生活のさまざまな場面を通して、食に関する積極的な取り組みがみられます】

0歳児クラスの前には離乳食についての掲示があり、初期から完了までを段階ごとに写真を使ってわかりやすく説明しています。調理室は窓ガラスになっており、子どもたちの目線から調理をしている様子や、食材などが十分に把握できる造りとなっています。また、調理室の前には、毎日の献立を3色群の栄養素別に分けて表示しています。表示は、5歳児クラスの当番が行っています。保育室内には、「栄養の歌」「食物噛み応え早見表」「旬の食べ物」「歯の磨き方」などをイラストで示し、子どもたちが自然と食に対して興味を持ち、理解が深まる工夫がされています。

園庭にはチューリップやさつまいもなど、季節に応じた植物や野菜を育て、食育でのクッキングなどに使われることもあります。献立は、法人内の園の栄養士が1ヶ月ごとに作成しており、担当園の地域によって、いろいろな食文化にふれることができます。また、園のホームページで、献立表を確認することができます。利用者アンケートでも食に関する保護者の方の満足度が高く、このような取り組みが反映されていることが感じられます。

【保育の質の向上に向けて組織的に取り組み、体制づくりに努めています】

年度末に、保育所全体の自己評価を全職員で実施しています。各職員の自己評価は、年度ごとの総括として文書化され職員間で共有しています。園長は、共有された内容をもとに、「来年度の保育について」としてまとめ、重点的に取り組む内容や、保育の中で大切にしたいことなどを共有しています。共有された内容は、各クラスの指導計画などに反映され、日々の保育実践につなげています。指導計画などは園長と主任が内容を確認し、必要に応じて主任が赤チェックを入れたものを担当者が修正、変更を行い保育実践につなげています。

◇改善を求められる点

【保育所の資源を利用した、地域との定期的な交流の機会が望まれます】

地域との交流として、区が主催する未就学児を対象とした育児講座に職員が参加しています。また、園は区が主催する「あかちゃんの駅」として玄関にステッカーを掲示し、授乳やおむつ交換の場所の提供をしています。

日常の保育においての関わりは、散歩の際に近隣の方へ積極的に挨拶をしたり、ハロウィンの行事の際には、近隣のそば屋、しょうゆ屋、デイケアサービスなどと交流する機会を設けたりしています。自治会長は地域の行事などについて、定期的に園を訪問して知らせてくれています。

今後は、保育所の資源を利用した園庭開放や園での離乳食講座など、地域の方を対象とした交流の機会を定期的に設けるなどの取り組みが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

- 実施できていないことが明確になり、次年度への解決課題がわかった。
- クラスの意見をヒアリングすることができた。
- ボランティアの参加が必須のようになっていますが、感染症がはやったり怪我した場合の対応などの問題があり、事実上難しいのではないのでしょうか。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり